

2016年リレーセミナー「労働問題の歴史と現在」

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2・3・4年次

学期：適宜 単位区分：選択 単位数：2単位

担当教員名 東野 充成（コーディネーター）

1. 概要

〈授業の目的〉

終身雇用や年功序列型賃金、産別労組など戦後日本が築き上げてきた労働慣行は、現在大きく変貌を遂げつつある。成果主義に代表される賃金制度の変化、裁量労働制等の拡大による労働時間規制の緩和、労働組合組織率の低下などである。一方で、ブラック企業やブラックバイトのように、自己実現に名を借りた苛烈な労働環境が告発されることも多くなった。さらに、ひとり親世帯や生活保護受給世帯のように、格差や貧困の問題の拡大の中で、劣位におかれた人々の働き方にも注目が集まっている。このように、現代の日本社会を知り考察する上で、労働問題はきわめて重要なファクターのひとつである。

本セミナーでは、女工や鉱山労働者など底辺におかれた人々の労働の歴史を振り返りつつ、現代日本の労働問題がどのような背景の中で出来し、今後、企業として、また社会として、どのような労働の在り方を志向すべきなのか、分析・考究する。セミナー全体を通して、労働問題の歴史についての理解を深めるとともに、労働という観点から現代日本の企業や社会の在り方を反省的に捉えられるようになることが本セミナーの目的である。

〈授業の位置付け〉

特定のテーマについて様々な視点から考察する講義であり、複数の教員がそれぞれの専門領域を活かして講義・演習を進めるオムニバス形式である。

2. キーワード

女工、鉱山労働、ワーク・ライフ・バランス、生活困難層、労使関係、人事評価、キャリア形成、ブラック企業

3. 到達目標

- ①資料を正しく理解する。
- ②自分の考えを持ち、積極的に意見を述べるができる。
- ③論旨明瞭なレポートを作成することができる。

4. 授業計画

- 1回 オリエンテーション（東野）
- 2回 近代化と労働（1）工業化の歴史的背景（水井・宮浦）
- 3回 近代化と労働（2）西洋の歴史事例（水井・宮浦）
- 4回 近代化と労働（3）日本の歴史事例（水井・宮浦）
- 5回 開発と労働—国際社会の課題—（水井・宮浦）
- 6回 ワーク・ライフ・バランス論（東野）
- 7回 ディスカッション（東野）
- 8回 生活困難層の働き方（東野）
- 9回 ディスカッション（東野）
- 10回 日本の労使関係（小江）
- 11回 日本の人事評価制度（小江）
- 12回 日本企業におけるキャリア形成（小江）
- 13回 「ブラック企業」生成のメカニズム（小江）
- 14回 総括（東野）
- 15回 試験（東野）
- 16回 解説（東野）

5. 評価の方法・基準

演習・ディスカッションへの貢献度、レポートで評価する。
評価は基本的にコーディネーターが行う。

6. 履修上の注意事項

少人数を前提とした演習形式の講義であるため、受講制限を行うことがある。

詳細の方法と注意事項については、第1回目の講義で説明する。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

各回に記載されているキーワードについて授業前に調べ、理解に努めること。

8. 教科書・参考書

教科書は使用しない。参考書は授業中に適宜紹介する。

9. オフィスアワー

コーディネーター：東野（総合教育棟309室）

質問等は授業終了後に随時受け付ける。その他何かあれば、下記のメールにて連絡すること。

E-mail: higashi@dhs.kyutech.ac.jp

テーマ別リレー講義

文化—過去・現在— Culture, History and Locality

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：全学年

学期：後期 単位区分：選択 単位数：2単位

担当教員名 宮浦・水井

1. 概要

「文化」ということばに対して私たちはどのようなイメージを持っているのだろうか。実際に見たり聴いたりして触れることができる、文学、音楽、美術、歴史的な建築物（文化財）などが頭に浮かぶ場合もあるだろう（「文化振興」「文化財保護」など）。これらは「かたちのある文化」として、「過去」から「現代」にいたるまで、価値あるものとして人々に記憶され、さらにその記憶が共有されることで受け継がれてきた。

一方、文化には地域で生まれ、その地の地域性の核として受け継がれるものもある。「かたち」あるもの、ないもの、どちらにしても、一定の時間軸を越えて受け継がれなければ、歴史の中に消え去ってしまうため「文化」として認知されることは難しい。本講義では「文化」を考える上でとても重要な「地域性」の問題を考えることを目的として（1）日常における文化（2）文化財（3）文化史・地域研究などの観点から、多角的に検討する。

2. キーワード

地域性、近代化、文化財、記憶、日常における文化

3. 到達目標

- ①文化について、歴史的な観点から多角的に理解する。
- ②多様な地域性について検討し理解する。
- ③自らの意見を文章で論理的に表現できる。

4. 授業計画

- 第1回 ガイダンス 文化—過去・現在
- 第2回 歴史・文化・地域性 イギリスの鉱山から
- 第3回 九州からみる日本の近代化
- 第4回 近代化遺産と地域性①
- 第5回 近代化遺産と地域性②
- 第6回 近代化遺産と地域性③
- 第7回 自然環境利用の比較文化
- 第8回 都市と若者文化
- 第9回 ユネスコ
- 第10回 自然環境とヨーロッパ
- 第11回 観光資源と地域性
- 第12回 多文化の共生
- 第13回 交流による地域づくり
- 第14回 アメリカ文学と地域性
- 第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

- ・各回に提出するリアクション・ペーパー 40%
 - ・レポート×2本 60%
- 合計で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・毎回必ず出席し、リアクション・ペーパーを提出すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ・レポート課題は自分で資料を集めて講義内容に情報を加えて作成すること。

8. 教科書・参考書

教科書は使用しません。参考書は授業内で指示します。

9. オフィスアワー

コーディネーター：水井・宮浦

質問は授業時間内および前後に受け付けます。必要な場合は下記にメールで連絡すること。

mizui@dhs.kyutech.ac.jp